

下流域の漂着ごみ

三重県



■長良川河口堰



ゲートの上流側にたまった流木や一般廃棄物を収集する作業の様子。

写真提供：独立行政法人水資源機構長良川河口堰管理所

■四日市港



2018年8月17日撮影

■高須海岸



2018年7月9日撮影

西日本を中心に発生した平成30年7月豪雨（2018年6月28日～7月8日）の影響で流木など大量のごみが三重県の四日市港や高須海岸に漂着した。

写真提供：四日市大学環境情報学部 千葉賢教授

■答志島 奈佐の浜



2017年10月24日撮影

2019年10月 海岸清掃後の奈佐の浜

奈佐の浜は、伊勢湾の中で最も漂着ごみが集まる海岸と言われている。伊勢湾に流れ込む河川水の7割は木曾三川が占めており、伊勢湾に流れ込むごみも同河川からのものが多くと推定される。

写真提供：四日市大学環境情報学部 千葉賢教授

愛知県



■庄内川・新川河口部



2024年10月19日撮影

藤前干潟クリーン大作戦

藤前干潟クリーン大作戦(2024年10月19日)に海と日本プロジェクト in 岐阜県が参加！海洋ごみ学習の一環として岐阜県内の小学生と大学生が参加し、庄内川・新川河口部の中堤会場で清掃活動を体験した。第41回目となる2024年秋の「藤前干潟クリーン大作戦」では、藤前干潟と庄内川、新川河口域一帯に設けた中堤会場および藤前会場、9学区会場の計11会場で清掃活動が行われ、1,987名の方が参加し、1,028袋（45Lごみ袋）のごみを回収した。

「藤前干潟」は伊勢湾最奥部に位置し、潮の満ち引きで多様な環境が作られ、多くの生き物が生息する場所。しかし、多くのごみが流れ漂着する場所でもあり、毎年、春と秋に大規模な清掃活動が行われている。

長良川ごみ分布調査2024



海のない岐阜県から、海を守るために私たちができることは？

近年、海洋プラスチックごみが国境を越えた大きな問題となっています。

国内では、流木などの自然ごみも漁業や海洋生物などへの直接的な被害を与えており、プラスチックごみを含めて、その対策が求められています。

環境省の調査では、伊勢湾の漂着ごみの大半は伊勢湾流域由来することがわかっており、

内陸の岐阜県においても発生抑制に取り組む必要があります。

海と日本プロジェクト in 岐阜県では、関市を流れる清流・長良川を対象に

河川区域におけるごみの散乱状況の実態把握を目的として調査を行い、その結果を本資料にまとめました。

本資料をきっかけに、海洋ごみ問題について考えていただけたら幸いです。

海と日本プロジェクト in 岐阜県 長良川ごみ分布調査2024

〈主催〉 一般社団法人海と日本プロジェクト岐阜県（事務局 株式会社岐阜放送）

〈監修〉 四日市大学環境情報学部 千葉賢教授

〈協力〉 岐阜県関市環境課

海と日本プロジェクト岐阜県のホームページでは本調査の詳しい結果を公開しています

<https://gifu-uminohi.jp/>

本調査は日本財団が推進する海洋ごみ対策プロジェクト「海と日本プロジェクト・CHANGE FOR THE BLUE」の一環で実施しました



海と日本プロジェクト in 岐阜県 2024年度 長良川ごみ分布調査 長良川ごみマップ

長良川流域（関市内）から選定した5地点において、ごみを回収しその個数を数え、ごみの分類ごとに計算することでごみの量と組成を調査しました。各地点において調査は2回実施しました。調査地点は「人が利用する地域」「橋の周辺」など、比較のごみが溜まりやすいと考えられる特徴を有する地点とし、事前視察をもとに決定しました。



調査には大学生を中心に、岐阜・三重・愛知に在住・在学する中学生から社会人まで幅広い年代の方にご参加いただきました。

③ 小屋名
広い河川敷で、釣りなどのレジャーに利用されているエリア

たばこの吸い殻 缶 廃タイヤ

長い時間滞留している、または漂着したと思われる錆や変形のある不燃ごみが見られた

④ 戸田
「不法投棄禁止」の啓発が実施されている、レジャーなどに利用されているエリア

廃タイヤ 錆びた金属片

タイヤや金属片などが見られた

⑤ 側島
キャンプなどのレジャーに利用されているエリア

電源ケーブル 鉄パイプ ペットボトル

直火跡やコード、パイプなど、比較的新しいごみが見られた

調査日
1回目：2024年6月1日（土）
2回目：2024年6月18日（火）
※2回目の調査は事務局スタッフが実施

調査地点
① 関観光ホテル前（関市池尻）
② 左岸側 鮎之瀬大橋下（関市小瀬）
③ 小屋名（関市小屋名）
④ 戸田（関市戸田）
⑤ 側島（関市側島）



② 左岸側 鮎之瀬大橋下
大雨などの出水の後は漂着ごみがたまりやすいエリア

様々な漂着ごみ 長靴などのゴム製ごみ
プラスチックごみ バーベキューごみ

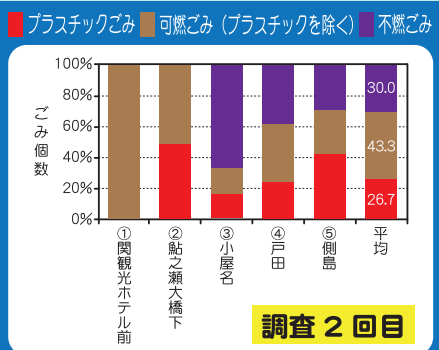
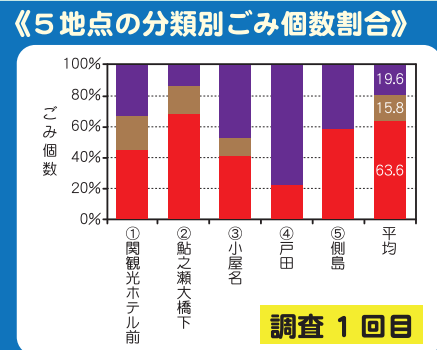
ごみの個数が非常に多く、特にプラスチックごみ（食品包装、ビニールシート・袋、たばこの吸殻）が多く見られた

① 関観光ホテル前
キャンプ、川遊びなどのレジャー利用が多いエリア

直火跡 網・炭
釣りごみ 釣り糸

バーベキューや釣り糸などのごみが見られた

②左岸側 鮎之瀬大橋下
出水の影響で流木などの自然ごみと一般ごみが漂着。このような自然ごみは、出水時に再漂流して伊勢湾に流出してゆくと考えられ、伊勢湾の海洋ごみを減らすためには、このような自然ごみを撤去することが有効。



分類別ごみ個数は、第1回はプラスチックごみの割合が高く、平均63.6%、プラスチックを除く可燃ごみが平均15.8%、不燃ごみが平均19.6%。
地点別では、鮎之瀬大橋下（地点②）のごみ個数が圧倒的に多く、合計で283.6個/100㎡となった。他4地点のごみ個数は少なく、4～17個/100㎡の範囲に留まった。
鮎之瀬大橋下は上流からの漂着ごみが大半で、他の4地点ではプラスチックを除く可燃ごみや不燃ごみが、各地点でのバーベキューやキャンプ等で発生していると考えられる。

